



# ピッポ新聞

2002

3

No.161

子どもの本専門店

年間購読料 (送料込み) 1500円

編集・発行 伊藤俊男

〒424-0886 清水市草薙1-6-3

TEL&FAX 0543-45-5460

URL <http://www.pippo.co.jp/>  
Email [pippo@diana.dti.ne.jp](mailto:pippo@diana.dti.ne.jp)

## ピッポ

### ベストセラーとロングセラー

去年一番売れた(読まれた)子どもの本はといえば「ハリー・ポッター」(既刊3巻)だ。今やこの本は、子どもの本の範疇を越え大人の本の世界をも席卷し、その発行部数は優に一千万部を越えたという。ぼくもこのピッポ新聞ですでに2回「ハリー・ポッター」について取り上げている。

最初は2000年の1月号で、このごろ読んだ4冊のファンタジーと題し、その中で「ハリー・ポッターと賢者の石」を紹介し、2回目は同じ年の8月号で「世界で一番売れている子どもの本」として、コラムを書いた。そのときには、これほどまでの大ブームになるとは思いもよらなかったのである。ブームのお裾分けで、うちでも去年はよく売れ(3点で100冊ぐらい)た。

しかし、元来へそ曲がりな子どもの本屋のオヤジは、他人様が「ワッー」と飛びつくものには、それが何であれ、「?」で臨むことにしている。それに、これまで何度も言ったり、書いたりしてきたように、ピッポの最大のポリシーは「ベストセラーよりも、ロングセラーを!」である。ベストセラーなどは売りたいとは思わないのだ!子どもの本屋はそんな現象に左右されないのである(少なくともピッポはね)!

今、店にあるハリー・ポッターと賢者の石の奥付を見ると、第1刷は1999年12月で、2

002年1月第444刷とある。この本と、ぼくがずっと売っていきたくて考えている岩波子どもの本『はなのすきなうし』と比較してみると、こちらは1954年に第1刷りが発行されて、2001年2月で第45刷となつていゝ。『はなのすきなうし』は、47年以上の歳月をかけて、45刷りまでに積み上げてきたのである。これこそを、ぼくはロングセラーと呼びたい。

『ハリー・ポッター』は2年あまりで444刷り、まさに超ベストセラーである。もしも『はなのすきなうし』がこれまでのペースで重版されたとして、『ハリー・ポッター』の444刷りまでこぎつけるのには、単純計算で後、400年近くかかることになる。ちなみに、『はなのすきなうし』600円・ピッポで1年間に売れる数約8冊、『ハリー・ポッター』1900円・8ヶ月で100冊。

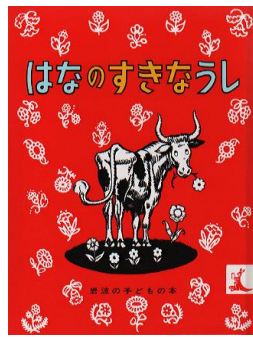
正直なところ、ぼくは『ハリー・ポッター』が10冊売れるよりも、『はなのすきなうし』が1冊売れる方がうれしいのだ。子どもの本屋のオヤジとしてはこれからも『はなのすきなうし』のような本を売り続けていきたいのである。

このように書いたからといって、僕は本としての『ハリー・ポッター』を否定しようというわけではない。それどころかエンターテインメントな本として評価さえしている。常連の小学3年生も、この厚い本3冊を瞬く間に読んでしまったし、普段余り本を読まない子がこの本を夢中で読んだと、多くの人からも耳にした。そう、この本は子どもたちを楽しませる本の世界へ誘う役割を果たしたのである。

では何が問題なのか？

2 年間で一千万部、これはやはり異常だ  
と思う。このことを通して何か見えてこ  
ないだろうか。

例えば、「こんなことに通じているような？  
去年 4 月の小泉内閣の発足時の内閣支持率  
80%。ドイツ・ポーランドへ集中する家族。  
ファーストフード・郊外型ショッピングセ  
ンターへ集まる家族。家族構成 30 代、40 代  
の両親と子供 1、2 人。旅行好き（ペンシヨ  
ンへ泊まる）。時には環境問題なんかも  
関心を示したり・・・」



「ハリー・ポッター」  
ブームについて聞  
いてみたら、面白  
いことを言ってい  
た。去年の全書籍  
の売り上げの 6%  
が占めたという。この 6%とい  
う数字は、とても大きい数字である。いま、  
日本で流通している書籍の全点数は五十万  
点？百万点？（この正確な数字は知らない）  
その中のたった 3 冊が 6%を占めたのであ  
る。やはり、これはおかしい。で、その人  
は「書店業界は今年はその分の売り上げを  
どうするのだろうか」と言っていた。

なんだか書いてることがヒットチャカメツ  
チャカになってきてしまった。そろそろ結  
論を出したいのだが・・・

ピッポでは時間がかかるけど、やっぱり

ロングセラーを中心に 1 冊 1 冊を子供に手  
渡していこう！これが結論だ。

### ねー、この本読んだ？

『のら犬ウイリー』（マーク・シーモン  
ト・作 みはらいずみ・訳 1365 円  
あすなろ書房）  
ピクニックへいったら子犬が出てきた。

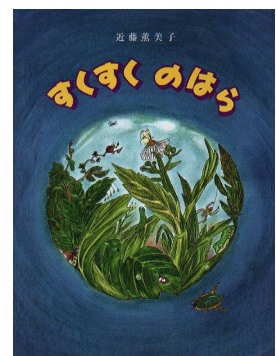


家族はその犬  
と楽しく遊び、  
名残惜しみな  
がら帰途へ、  
子どもたちは  
この子犬を家  
に連れ帰りに  
来たが・・・

この絵本軽やかな中に家族の野良犬にたい  
する優しさが溢れている。この作者シーモ  
ントは『はなをくんくん』（福音館書店）  
『木はいいなあ』（偕成社）の画家である。  
1915 年生まれというからかなりの高齢  
であるが、去年この絵本を出版したとい  
うからすごい。4 年ほど前、マックロスキー  
といっしょに来日した折り、講演を聞いた  
ことが思い出される。二人ともナイスガイ  
だった。

『すくすくのはら』（近藤薫美子・作  
1575 円 アリス館）  
小さい子は昆虫など小さい生き物が大  
好きだ。この絵本は、その小さい生き物の

世界を俯瞰的に眺めることが出来る。小  
な生き物が、卵から順を追って成長する様  
子がわかりやすく描かれている。生き物は



種によっても  
のすごい数生  
まれ、その成  
長の過程で他  
の生き物に食  
べられてしま  
い、成虫にな

るのはわずかであることなども分かる。こ  
の絵本を読んだ子は、生き物は成長するた  
めには必ず他の生き物をたべなければなら  
ないことなど、多くのことに気付くことだ  
ろう。この本は、生き物が動き出すこれか  
らの季節にお薦めである。

4 歳ぐらいから

『バートさんの大ぼうけん』（アラン・アー  
ルバグ・文 レイモンド・ブリッグズ・  
絵 山口文生・訳 1365 円 評論社）  
バートさんを知ったら、きつと誰もでも

彼を好きになっちゃうよ。だってね、バー  
トさんて、とても大きい大人なのにドジで  
臆病なんだよ。シャツを着ようとして、階  
段から落ちて



そのままとラツ  
クでスコット  
ランドまで運  
ばれちゃった  
り、段ボール  
の中からうな  
り声が聞こえたらさ、泳げないのに水へ飛

び込んだじゃうんだもの。でもね、とても優しいんだよ。捨て犬を家へ連れ帰って来るんだもの。ブリッグズのユーモアたっぷりの絵本。去年の9月の出版ですが、面白い絵本だよ。

4歳ぐらいから

『落語絵本 めぐろのさんま』(川端誠・作 1260円 クレヨンハウス)

殿様が狩りの途中立ち止まると、いい匂いがしてきた。家来に聞くとサンマを焼く



匂いだという。殿様はこれまで冷めた魚しか食べたことがなかった。焼きたてのおいしさにとても感激した。城に戻ってからも忘れられなくて・・・お馴染みの落語「目黒のサンマ」を絵本にした。

小学校低学年から

『桃源郷ものがたり』(松居直・文 蔡こう・絵 1680円 福音館書店)



漁師が迷い込んだ村は、とても豊かで村人は平和に暮らしていた。聞いてみると、祖先が戦乱を逃れてここで暮らし始め、以降誰にも気付かれずに今に至ったという。

漁師は自分の村に帰ったあと、再びこの村を探すが二度と見つけることができなかつたという話。なにやら、「うらしまたろう」の話に似ているようでもある。人は何時の世でも、理想郷を求めるものである。この「桃源郷」のもとになった、「桃花源記」が陶淵明によって書かれた時代は戦乱の時代であり、人は平和な暮らし求めていたのだらう。その暮らしの可能な場所こそが、桃源郷であったのだ。今のこの日本では、人々は果たしてどんな「桃源郷」を思い描いているのだろうか？

この絵本は中国の蔡皋の絵で、中国を感じさせるスケールが大きく美しい絵である。前後の見返しに描かれている線画(?)は、この絵本をさらにふくらみのある内容にしている。

小学校低学年から

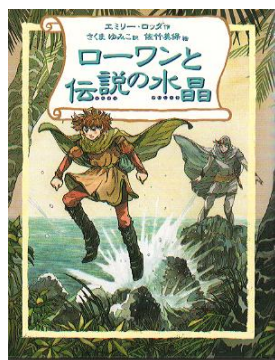
『シンドバットの冒険』(ルドミラ・ゼーマン・作 脇明子・訳 1995円 岩波書店)

大富豪の船乗りのシンドバットは、同名の荷かつぎのシンドバットを屋敷に連れ帰り、自分の大冒険を話した。大蛇のいるダイヤモンドの谷から怪鳥の足に自分を縛りつけて脱出するなど奇想天外な大冒険である。これは「千一夜物語」または「アラビアン・ナイト」と呼ばれるたくさんの物語の中の有



名な話の一つ。『シンドバットの冒険』を絵本のテキストに書き直したものの。絵や文字がペルシャの模様で縁取られていて、アラブの雰囲気をよくよくつたえている。『シンドバットと怪物の島』も同時に出版された。

『ローワンと伝説の水晶』(エミリー・ロッダ・文 さくまゆみこ・訳 1470円 あすなろ書房)



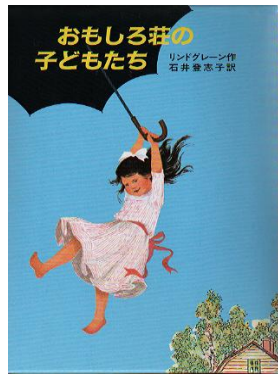
ローワンの家系がそれを果たさなければならなかった。マリスには二つの部族があり、それぞれ水晶の守り人を自分のところから出そうと争っていたのである。マリスへ到着するとすぐに、ローワンの母が毒を盛られ危機に陥る。ローワンは母を救わなければ生らない一方で、一人で守り人を選ばなければならなかった。ローワンは疑心暗鬼に陥り、危険な目にも遭う。はたして、ローワンは無事に3人の守り人の候補から1人を選ぶことができ、リンの村へ無事帰ることができののだろうか。4年生ぐらいから

ローワンの村リンへは新たな水晶の守り手を選ぶ必要に迫られていた。古くからの約束で、リンのむらのそれも、

# インフォメーション

## リンドグレーンの特集

『長くつ下のピッピ』と言ったら、この日本でもたくさんの子どもに知られている物語ですよ。その作者であるアストリッド・リンドグレーンさんが、この1月亡くなりました。1907年生まれの94歳でした。



彼女は、スウェーデンの国民的な作家ですが、ゆかいな冒険物語や探偵小説、農村の子どものちの素朴な日常描いた話、しみじみとした感動的なフア

ンタジーなどタイプの違った物語をたくさん生みだし、その作品は、世界中の子どもたちに今も愛されています。ピッポでは、彼女に哀悼の意を込めて、リンドグレーンの特集を開催することにしました。

岩波・リンドグレーン作品集全21巻 『ちいさいロッタちゃん』 『ロッタちゃんのひっこし』 偕成社

『こうしはそりにのって』 『おうしのアダムがおこりだすと』 金の星社  
『エミールとちいさなイダー』 『おもしろ荘のリサベッタ』 岩波書店

など多数を特集

## 春の野山へ出かけませんか

山は芽吹きの時を迎えます。カラマツの新芽のやわらかさ、木イチゴの白い花、山吹の黄色、スミレの紫など、春の山はほんのりとした色合いも素敵です。ウドやタラの芽などの山菜も豊富です。一緒に出かけて見ませんが、はるの野山へ！

時 4月21日(日)

ところ 井川県民の森周辺

参加費 材料や薪代を含めて、1家族500円

\* 山菜を採り、県民の森キャンプ場で山菜料理やみそ汁などを作ります。

現地集合、現地解散 時間は午前10時～午後2時半頃まで

参加希望の方は、ピッポまで連絡下さい。尚、詳細は次号でお知らせいたします。

## ばあやのおはなしかご

今月の宮崎さんのお話の会は、3月23日(土)午後2時からピッポで開催いたします。

絵本を読んだり、素話をしたり、楽しい会です。

春休みですから、是非お出かけください。

\* ピッポでは子ども本の古書を買取り取り。引越しの季節です。処分したい本がございましたら連絡下さい。評価して買取り取り。

## 編集後記

3月1日は溪流釣りの解禁日である。何年か前までは必ず出かけていたが、ここ数年はとんとご無沙汰である。半年近くも待ちわびていた釣り人は、先を争って入渓する。3月の大井川の源流はまだ冬そのものである。降る雪の中の釣りだって珍しくはない。しかし、釣行を2度3度とかさねるうちに、渓は変化を始める。冬枯れていた溪が色づくのである。バツコヤナギの灰白色や、マンサクやアブラチャンの黄色、フサザクラの赤などが目立つようになる。この時期の溪や山は驚くほど変化が早い。やがてはあの柔らかな黄緑の新芽で被われてゆくのである。あー、いききたいな春の山！